



GCC：エジプトのリビア空爆を巡る GCC 諸国の路線対立

エジプトがリビアを空爆した件を巡り、GCC 諸国内での路線対立が表に出てきている（エジプトによるリビア空爆については以下を参照「[エジプト・リビア：エジプト軍がリビアの「イスラーム国」拠点空爆](#)」『中東かわら版』No.247（2015年2月16日））。2月18日、アラブ連盟での会合において、カタールの代表がエジプトによるリビア空爆を周辺国と相談しない単独行動主義だと批判したが、これに対し、エジプト代表がカタールはテロを支援していると応酬する一幕があった。これを受け、カタールは駐エジプト大使を自国に召還した。

2月19日、ザヤーニーGCC事務局長は、エジプトによるカタールの糾弾を、カタールがこれまでテロ・過激主義と真剣に闘ってきた事実を無視する誤った告発であるとし、アラブの一体性の統合に資しないと声明を発出した。これまでカタールの外交政策を問題視する姿勢をとってきたGCCであるが、この声明が出たことにより、GCCはカタールの擁護にまわりGCCとして結束する動きかと思える向きがあった。しかし、同日夜、GCCは改めて声明を発出し、GCCはエジプトをあらゆるレベルで支援しており、エジプトの安全と安定はGCC諸国の安全と安定であると表明した。

評価

二つの異なる声明が出された背景については、メディアで様々な報道がなされているが、現段階で確定的なことは分かっていない。はっきりしていることは、GCC諸国内では引き続き外交政策の面で大きな路線対立が存在しているということである。

リビア情勢を巡っては、2011年3月の時点でGCC諸国は当時のカザーフィー政権を打倒することで一致団結していた。アラブ連盟は国連安保理に対しリビアに飛行禁止空域を設定するよう要請を出す決議を発出したが、これを主導したのはGCC諸国だった。カタールとUAEは、その後の軍事作戦にも参加している。

しかし、リビア国内が分裂すると、イスラーム主義勢力を支援するカタールと反イスラーム主義勢力を支援するUAEは激しく対立する。更に、自国内のムスリム同胞団を国家の脅威と見なすUAE、サウジアラビアと、これを支援するカタールとの対立は決定的なものとなり、2014年3月にはUAE、サウジアラビア、バハレーンの3カ国が自国の駐カタール大使を召還するという事態に至った。これはクウェイトの仲介により11月に解決したとされ、エジプトもGCC諸国間の和解を歓迎する声明を発出したものの、今回の騒動が発生したことは、GCC諸国内の路線対立が真の解決に至っていないことを如実に示している。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL：<http://www.meij.or.jp/>